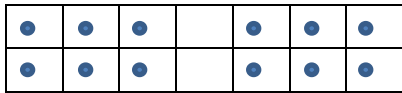
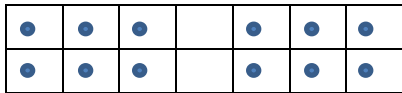
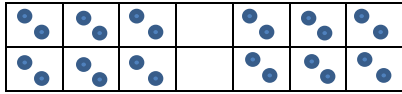
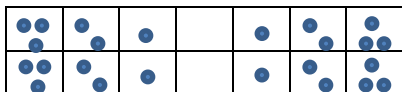

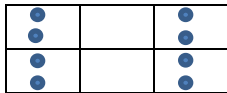


課 題 切花ハボタンの栽植密度が切花品質に及ぼす影響

担 当 者 浪花 恵 内藤 継吾

目 的 切花用ハボタンは新年用の切花として需要があり、関西などの県外にも出荷されている。しかし、栽培基準が確立されておらず、草丈や花径の揃いが悪く、可販率も低い。そこで、当市において、収量が良く揃いの良い単位面積あたり収益が高い栽植密度を検討する。

供 試 品 種  
ハボタン F1 晴姿(白) (タキイ種苗)  
F1 初紅(紅) (タキイ種苗)  
F1 フェザーホワイト(白) (タキイ種苗)

試験区構成	1 区	2 区	3 区	4 区	5 区	6 区						
							株間 12cm、条間 12cm、6 条植え (12cm×7 目ネット、中 1 条抜き) 3,333 本/a 畝幅 150cm	株間 10cm、条間 10cm、6 条植え (10cm×7 目ネット、中 1 条抜き) 4,285 本/a 畝幅 140cm	1 目 2 株千鳥植え (12cm×7 目ネット、中 1 条抜き) 6,667 本/a 畝幅 150cm	1 目 1~3 株植え (12cm×7 目ネット、中 1 条抜き) 6,667 本/a 畝幅 150cm	直播き 各目 3~4 粒落とし間引きなし (12cm×7 目ネット、中 1 条抜き) 10,000 粒/ 畝幅 150cm	株間 10cm、条間 40cm、2 条植え 3~4 本仕立 (20cm×3 目ネット、中 1 条抜き) 1,667 本/a 摘芯栽培 畝幅 120cm

区 制 1 区制 1 区 3 m<sup>2</sup>(各 15 本調査)

耕 種 概 要 栽培条件 施設、露地

播 種 露地 7 月 8 日(200 穴トレイ)

施設 7 月 26 日(200 穴トレイ)

定 植 播種 10 日後 (5 区のみ直播)

栽植密度 試験区構成のとおり

施 肥 量 露地 元 肥 苦土・有機入り複合 A801T 号 12.5kg/a

成分量 N1.0-P1.0-K1.0kg/a

施設は無施肥で栽培開始(EC=0.44)

灌水管理 定植後 1 カ月まで朝 1 回灌水

施設はその後乾燥時は灌水を行った

結果及び考察

1 切花長は、全区で、露地、施設とも出荷規格でLとなる 50 cm以上のものが多かった(図 1、3)。しかし、初紅においては、全体的に切花長が短いものが多かった。また、切花長について、6区はばらつきが多かった。花径は、1区、2区の順に大きく、3区、4区、5区に小さめの傾向がみられた(図 2、4)。フェザーホワイト(以下「フェザー」とする)は、花径のばらつきが大きかった。

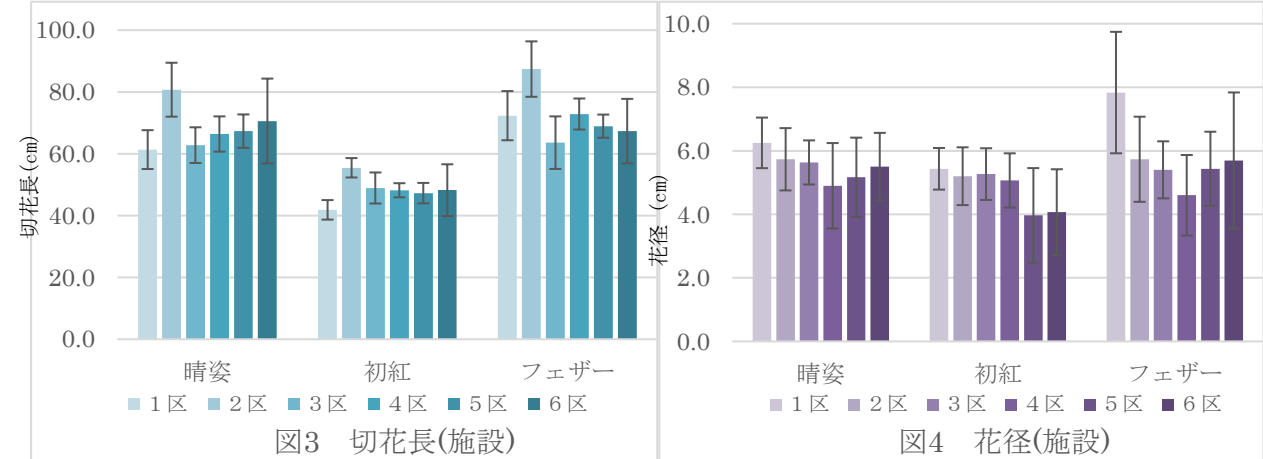
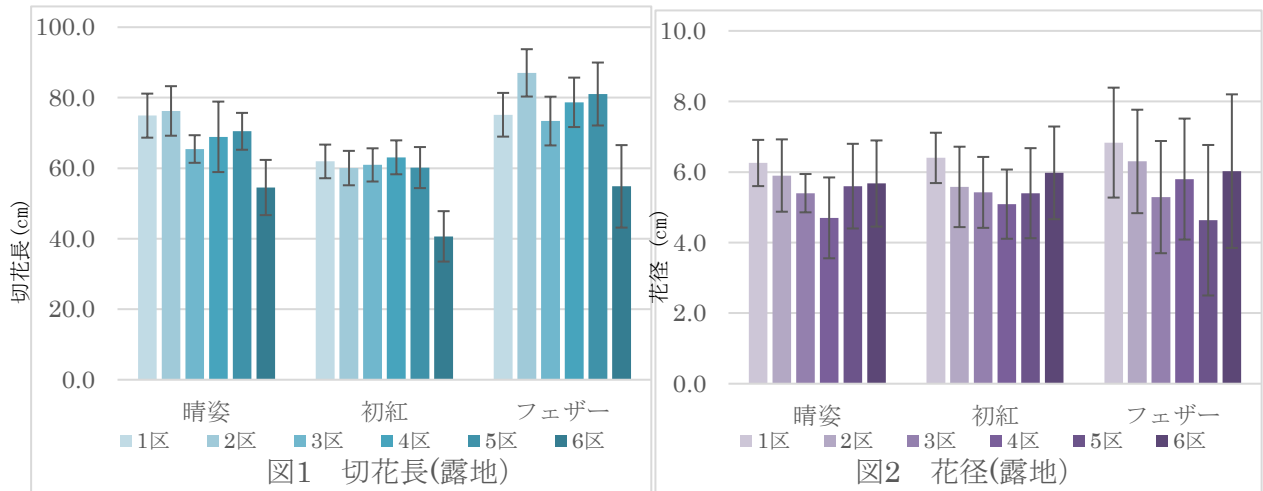
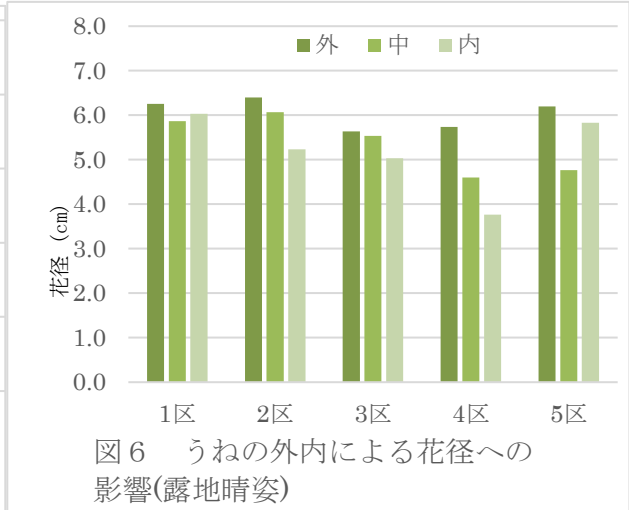
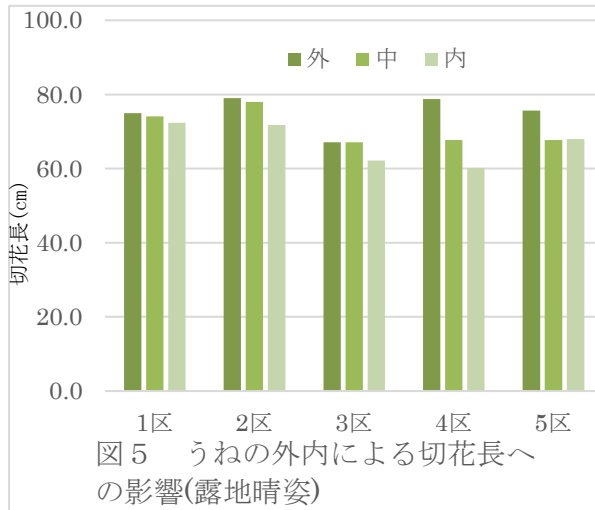


表 1 出荷規格

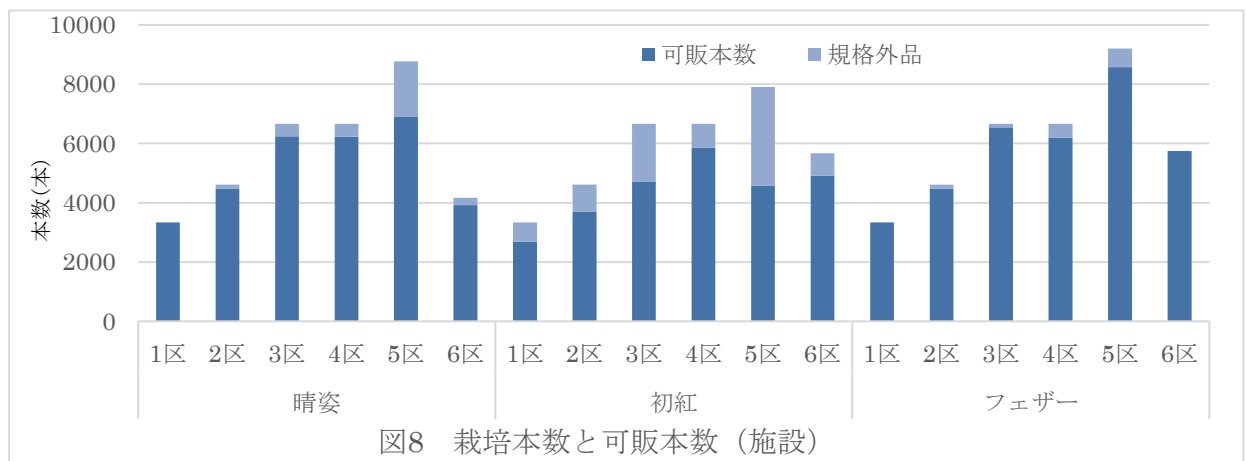
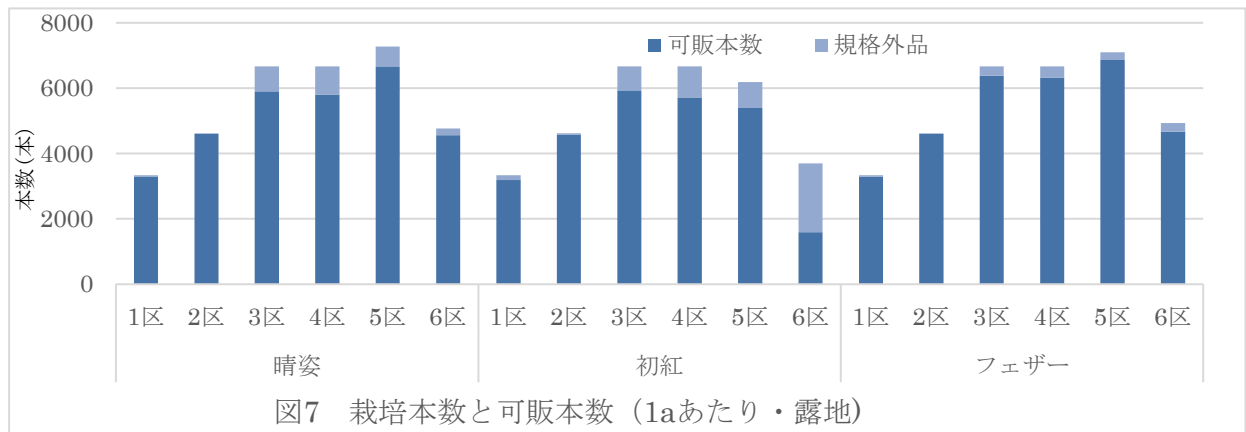
階級 ・ 草丈等	階級	草丈	花径*					
	L	50~70cm	大輪	10 cm以上	小輪	10~5 cm	プチ	5 cm以下
	M	30~49cm						
アレンジ	30 cm以下							

\*花径は、色付いた部分の直径とする。

2 定植位置による切花長と花径(露地晴姿)は、1区においては内と外のばらつきが少なく、4区のはらつきが大きかった(図 5、6)。



3 単位面積当たりの栽培本数及び可販売本数は、1区は規格外品は少ないものの全体の栽培本数が少ないため可販本数も少なくなり、3区、4区、5区は規格外品が出るものの栽培本数が多いため可販本数も多くなった(図7、8)。なお、短いもの、細すぎて花径の着色がないものを規格外品とした。



4 花径と茎径の相関をみると、花径が小さいものは茎も細くなる(相関係数=0.59)(図9)。茎径については、太いと花瓶に入りにくかったりオアシスが割れてしまうため、細いものが好まれるが、相関により、茎径が細いものを作る場合は、花径が小さくなる栽培を行えばよい。

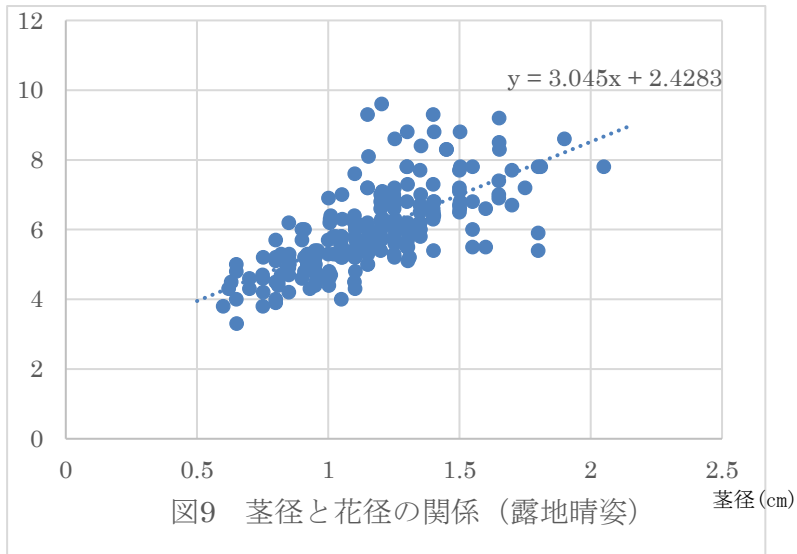


図10 各区の花径と重ねの様子 (丸葉白が晴姿、丸葉赤が初紅、切葉がフェザー)



花径が小さいもの(左)も出荷可能。(露地晴姿)

以上の結果から、収量が多く揃いが良い栽植密度を考えると、まず、可販本数が多いのは、3、4、5区である。3、4、5区は、草丈も十分で、花径も小さめで、その点からも良い。しかしながら、

4区はばらつきが大きい。ばらつきが多い場合、規格ごとにわけて出荷する際、1箱に満たない端数が増え、無駄が多くなる。規格ごとの単価の違いはほとんどないため、可販本数が多いものが収益を考える場合有利であり、3区、5区が有利であると考えられる。5区は播種日以降数日の天候に発芽が左右されるなど条件が限られるので、通常の移植栽培の中では3区が、収量が多く揃いが良い栽植密度だと言える。